

# おひまわりの会

## 阪神大震災復興にいま一度のご支援を

元気に学んでいる  
「ひまわりの会」の人たち



### あの大地震から2年余り—しかし支援活動やボランティアはまだ必要とされているのです。

ご承知のように、曹洞宗国際ボランティア会は、この3月2年余りにわたる支援活動の拠点、神戸事務所を撤収しました。しかし、それで決して活動を終了させたわけではありません。後方支援など、新たな形で現在も支援活動を続けています。たとえば、震災を通して貢献してきた、読み書きに困っている在日外国人の存在。SVAではその問題に取り組もうと、昨年10月、同和地区での識字教室をスタートさせました。その活動は、現地の人々に引き継がれ、曹洞宗関係の方々にもしばしばご協力をいただき、地域からの絶大な支持をいただいているます。今では入学希望者が殺到し、空席待ちの人がいるという嬉しい悩み。読み書きを学びたいという在日韓国人・朝鮮人の方々がいかに多いことか、この問題の根深さをつくづく思いしらされます。むろん、希望されるすべての方をお受けしたいとうつですが、何せ現在の財政状況では、会場や教材やボランティアの確保が困難なため、到底これ以上対応できない状態です。また、今後も仮設住宅への訪問活動や、焼け跡から復興へと、町づくりに取り組む住民の方々への支援も必要されています。

どうか、このような状況をご理解いただき、何ども、あなた様のもう一度の、ご協力、ご支援を賜りたく衷心よりお願いを申し上げます。

「こんな所で絶対死ぬもんか」—。過日、神戸のある仮設住宅のこと。至るところにこんな貼り紙がありました。居住者の誰かが貼ったようです。長期にわたる仮設生活の不安がこうさせたのでしょうか。何とも切ない思いがよぎります。一方で、「仮設住宅ってまだあるんですか」。地方に出かけるとこんなショッキングな声も聞かれます。マス「ミ」もあまり報道しなくなつた被災地・神戸の現状。あれほど強かつた人々の関心もしだいに風化してきたのでしょうか……。しかし、被災者の抱える問題は、見えないとこでむしろ深刻化していると言えます。

兵庫県内では、今も約2万8千世帯が仮設住宅の生活を余儀なくされ、一人暮らしで誰にもみとれずにしてなる「孤独死」も170人を超えました。そして震災後に再建し活気づいた店や工場が、2年を過ぎた今、相次いで消えている現実もあります。大きな借金の山がのしかかり、倒産せざるを得ないのでです。神戸では窮地に立たされている失業者が少なくありません。しかし、こんな苦しみを抱えながらも、人々は必死に町づくりに復興に取り組んでいます。

ご承知のように、曹洞宗国際ボランティア会は、この3月2年余りにわたる支援活動の拠点、神戸事務所を撤収しました。しかし、それで決して活動を終了させたわけではありません。後方支援など、新たな形で現在も支援活動を続けています。たとえば、震災を通して貢献してきた、読み書きに困っている在日外国人の存在。SVAではその問題に取り組もうと、昨年10月、同和地区での識字教室をスタートさせました。その活動は、現地の人々に引き継がれ、曹洞宗関係の方々にもしばしばご協力をいただき、地域からの絶大な支持をいただいているます。今では入学希望者が殺到し、空席待ちの人がいるという嬉しい悩み。読み書きを学びたいという在日韓国人・朝鮮人の方々がいかに多いことか、この問題の根深さをつくづく思いしらされます。むろん、希望されるすべての方をお受けしたいとうつですが、何せ現在の財政状況では、会場や教材やボランティアの確保が困難なため、到底これ以上対応できない状態です。また、今後も仮設住宅への訪問活動や、焼け跡から復興へと、町づくりに取り組む住民の方々への支援も必要されています。

どうか、このような状況をご理解いただき、何ども、あなた様のもう一度の、ご協力、ご支援を賜りたく衷心よりお願いを申し上げます。

# これが青春だったんやなあ。

手にはいつもえんぴつ、  
熱心に学ぶハルモニたち



参加者もボランティアもお互いに学び合う

■一人ひとりに合わせた学習  
「先生、これは何と読むんやろ?」。ハルモニは孫のような年格好の青年ボランティアにたずねている。会は習熟度に応じたグループ制である。一人ひとりの

■「ひまわりの会」ができるまで  
この会発足の発端は、阪神淡路大震災の救援活動の時に遡る。SVAのボランティアが市営住宅の訪問活動をするうち、ひらがなの読み書きにさえ困る人たちがいることを知ったのだ。その地区は在日韓国人や朝鮮人が多いところ。相互扶助の強い地域だったため、それまでは何とかしのげていたのかもしれない。しかし、震災で「ミニユーティが崩れ、問題が表面化したのだ。

その後、この方々に支援の手をと、様々な模索を重ね、いよいよ昨年の10月、識字教室「ひまわりの会」は発足した。当初は参加者10人、講師役のボランティアが15人という小さな集まりであったが、今では約50人が登録し、いつも、3、40人が顔を揃える。参加者の9割は在日一世のハルモニ(おばあさん)たち、ほとんどが70歳を過ぎた人たちである。

私は、はづかしい人で、おさげの手を前にやり、親にみつけられないよう、いそいで内の中へはいりました。私も名前を叫ばれてもわざけはしませんでした。

ひまわりの会参加者の作文より

## 識字教室

### 「ひまわりの会」は、いま

「おはようさん」「久しぶりやねえ」。

土曜の朝、午前9時をまわった頃、長田文化会館(神戸市長田区五番町)のフレハブは、明るい声に包まれる。定刻までだいぶ時間があるといふのに、おばあさんたちが次々にやってくる。週に一度、文字の読み書きを学ぶ「ひまわりの会」。会議室がたちまちいっぱいになる。

「9月1日から医療費が変わりますよ  
老人保健法改正の説明も行われた



ひまわり教室の会場  
長田文化会館



開始30分前、  
ボランティアは打ち合わせを行う



会場は熱心に学ぶ人たちで  
びっしり

進度に合わせて学習を進めている。ひらがなを一文字ひと文字書きつづる人もいる。漢字の入った物語を読み進んでいる人もいる。しかし、会では単に読み書きを習うだけではなく、それを通して新しい自分を発見したり自己表現できるようになることもめざしている。年に何回かは、遠足に出かけるなど、課外学習も行う。時には、生活に必要な学習も行う。たとえば8月29日の勉強会では、ケースワーカーの仕事に携わっているボランティアが講師となり、医療費改正についての説明が行われた。9月1日の老人保健法改正を前に、何がどう変わるのか、病院に行つても困らないための学習である。

### ■ひまわりの教室が一番たのしい

参加者はひまわりの会をどんなふうに感じているのだろうか。この6月から通いはじめているという李善雨さん（71）は語る。「学ぶことが楽しくて、楽しくて」「ああ、これが青春だったんやなあ」とてしみじみ想つてます」——。満面の笑みを湛えて語る李さん。朝鮮半島にいた青春時代、戦争の真っ最中で学校に行くことはできなかつた。日本に渡ってきたのは昭和30年、苦労の連続であった。差別も受けた。読み書きができずやしい思いもした。「毎週、ひまわりの会に行くのが楽しみでね。時々、内職が入つて、行けない時はとても残念です」。その表情は、70年にしてやつてきた青春を謳歌しているようにも見えた。

■真剣な姿に、自分の方こそ教えられる  
そんなハルモーたちの姿の目のあたりにすると、誰もが胸を打たれる。ボランティアたちは次のように語る。

「一生懸命漢字の練習をする真剣さに胸が熱くなります」「我々若いボランティアに感謝して下さり、その姿から謙虚であることの大切さを教えられます」

そこに教える側、教えられる側という区別はなく、同じ目線に立って経験や知識を分かち合う場となっていることがわかる。

## 学ぶ喜びを多くの人に

こうして、発足して早くも1年になるひまわりの会。最近、他の識字教室とのつながりも生まれつつある。そして、新聞などにも紹介され世間の注目を浴びるようにもなってきた。しかし、同時に悩みも抱えている。事務局長の藤井隆央さん（27）は語る。「参加を希望する人が多く、すべての人に対応できなくて困っています」。嬉しい悩みである。ボランティアの登録は約40人、毎回顔を出せるのはほぼ半数、ボランティア講師一人が担当するのは平均2、3人、ときには5人を相手にすることもある。希望するすべての人たちを受け入れたいが、そのためにはもはや場所も手狭となり、ボランティアの数も足りないのだ。そして、教材も必要だ。現在、読み書きができる人は兵庫県でも約3万人といわれる。しかし識字に対する行政のビジョンは「県内の識字・日本語教室の正確な数さえ把握されていない」というのが現状のようである。それだけに、「ひまわりの会」にかかる住民の期待は大きい。読み書きを通して、世界が広がり、新しい自分を発見する。一人でも多くの方がその喜びを味わえるようにと願わざるをえない。

# 神戸は今、頑張っています。

傷ついた心に、笑顔と希望を取り戻すためのお手伝い。

SVA神戸事務所はこの3月閉鎖しましたが、SVAで活動していたボランティアが、「ひまわりの会」、「春風会」、「まち「コニユニケーション」などのグループを立ち上げ、今も活動しています。SVAは、これらの会を支援したり、全国とのネットワークづくりを行なうなど、今もなお被災地・神戸の人々を応援しています。

## 識字教室

神戸市長田区では、読み書きに困つておられる方が多いため、識字教室「ひまわりの会」を通して、字の読み書きの学習や、地域の人々の「コニユニティづくりの支援を行っています。

## 仮設住宅での コミュニティ づくり

一人暮らしの高齢者  
も多い神戸市長田区  
の若松仮設住宅。「春  
風会」というグル  
ープが食事会などを  
催し、住民の元気回復  
と絆づくりのお手伝  
いをしています。

## 被災地と 全国を

被災地神戸の関係  
団体と連携しながら、  
まちづくりや識字の  
問題に関わる全国の  
団体と被災地との間  
をつないでいます。  
全国の災害ボラン  
ティアのネットワーク  
づくりにも取り組ん  
でいます。

## 御蔵地区の まちづくり

「まち「コニユニケー  
ション」というグル  
ープは、長田区御蔵5、  
6丁目のまちづくり  
など、地域活動グル  
ープの支援や、イベント  
の開催など、焼け跡か  
ら復興しようとして  
いる地域のまちづく  
りを支援しています。

「春風、ようや  
やろうやないか」  
仮設住宅の訪問活動は今  
まちづくりの支援活動は今



■いつも明るい春風会の人たち



■公開学習会「御蔵学校」にて

「地域の住民や行政、専門家など、様々  
な方の間をつなぐかけ橋になればと思  
っています」——。昨年4月、被災した地元  
企業の室をお借りしてスタートした、「ま  
ち「コニユニケーーション」というグループ。  
そのスタッフ浅野幸子さんは、のように語る。  
このグループは、様々な地域活動グループ  
を支援したり、「地域と暮らしが者である」  
公開学習会やイベントを催したり、地元の  
まちづくりのお手伝いをしている。  
そもそもこの会の発端は、震災で町のほ  
とんどが全焼してしまった長田区御蔵地  
区を支援しようと、SVAが他のグループ  
とともに、住  
民組織「まち  
づくり協議会」  
に協力したこ  
とに遡る。浅  
野さんは元 S  
VAのスタッ  
フであり、今も  
こうして神戸  
に残って活動  
している。

曹洞宗国際ボランティア会(SVA)の  
阪神大震災復興支援募金に  
ご協力ください。

同封の郵便為替用紙で募金をお送りいただければ幸いです。  
領収書の必要な方は、通信欄にその旨ご記入ください。

□座番号 00150-8-145510  
加入者名 SVA兵庫地震救援募金